

02. 逆チカン電車

おにーさん。

おにいさーん。

満員電車の、乗り降りのどさくさ紛れて、私のお尻、触ったよね？

首を横にふってどうしたの？

不可抗力とでもいいたいの？

そしたら…

今、お兄さんの二の腕にあたってる、おっぱいはどう説明するんです
か？

普通、女性の胸が当たってたら、離れますよね。

さっきから、おっぱいのむにゅっとした感触に、神経集中してたんじ
やないですか？

あら…

今さら離れなくともいいんですよ。

当てるんですから。

もっと密着させて…。

おっぱいの感触、楽しんでいいんですよ。

だって、決定的な証拠がほしいですから。

ふふふ、私の思惑通り、お兄さんのズボン、膨らんでますね。

おちんちんが大きくなった状態じゃ、言い訳できませんよ。

うーん。

勃起だけじゃ、証拠として弱いかなあ。

そしたらあ。

お兄さんのおちんちん、ズボンの上から手でなぞって…。

大きくなったおちんちんを、手で上下に、すりすり…。

もっと興奮させて、カウパー液で、ぐしょぐしょにして差し上げますわ。

ズボンにエッチな染みができたら、言い訳できませんね。

(耳舐め)

ふふふ、やっぱり。

おにいさんて、耳弱いですよね？

だって、さっきからこんなふうに話しかけてるだけで

身体がピクって反応してたんですもの。

おにいさんを興奮させるには、耳が効果的みたいね。

(耳舐め)

おにいさん、声出しちゃダメですよ。

周りの乗客に、バレちゃいますよ。

気持ちよくても、声出しちゃダメですよ。

(耳舐め)

ふふふ、おにいさんおもしろい。

こっちのお耳はどうかなあ。

(耳舐め)

耳をなめてる間も、おちんちんをなぞる手、やめないですからね。

(耳舐め)

おにいさんのお耳、すっごく美味しいわ。

それに、おにいさんの反応、すっごくいい。

ねえ、私のスカートの裾を、持ち上げてみて。

いいから。

そう、パンツ履いてないんです。

それに…

お兄さんの反応を見てたら、愛液が太ももまで流れるほど、興奮して
しました。

おにいさんも電車の中で、おちんちん大きくして、カウパー液ダラダ
ラ流してますし。

共犯、ですね？

ズボンがパンパンに膨らんで、おちんちんが苦しそうですから、チャ
ックおろして出しちゃいますね。

抵抗したら、どうなるかわかりますよね。

ああっ、すっごくたくましい。

このまま、私の愛液でとろとろになったおまんこに、入れて下さい。

大丈夫ですよ、密着しながら入れれば、周りの乗客にはばれないですよ。

ほら、おまんこの入り口におちんちん当たってますよ？

このまま、入れていいんですよ。

はんっ、ああっ。

は、入ってくる…。

ああっ、い…、いい…。

お、奥まで、入っちゃいましたね。

ピストン、続けてください。

あつ…。んはあ…。

おちんちんが…、出たり入ったり。

き、気持ちいい…。

お兄さんのおちんちんで、気持ちよくさせられる…。

お兄さんも、もっと気持ちよくなつて。

(耳舐め)

大きくて、固くなったおちんちん。

すっごく気持ちいいの。

お兄さんのおちんちんで感じて、愛液が溢れ出るのが止まらない…。

(耳舐め)

んあ…、ダメ、そんな早くしたら…。

声、我慢できない…。

い、イキそうなの？

いいわよ、中にちょうどい。

私も、もう限界…。

お兄さんのおちんちんで、いかされちゃう…。

い、いくよ。

いくいくいく、いくううううう。

んつ、んあつ。

あああつあ…。

ああん、はあはあ。

いい、お兄さんのおちんちん、すっごくいい…。

中にたくさん出しちゃったね。

さ、私この駅で降りなきや。

お兄さんのせーし。

ごちそうさま。

またね。